

研究・調査報告書

報告書番号	担当
29	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Sub-Clinical Anxiety and the Onset of Alcohol Use Disorders: Longitudinal Associations from the Baltimore ECA Follow-Up, 1981-2004. 潜在性不安障害とアルコール使用障害の発症：1981～2004年のボルティモアの疫学調査地域フォローアップからの長期的な関連性	
執筆者	
MacDonald R, Crum RM, Storr CL, Schuster A, Bienvenu OJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Addict Dis. 2011 Jan;30(1):45-53.	
キーワード	
不安、アルコール、潜在性、特異的な病的恐怖症、コホート	
要 旨	
背景： 不安障害とアルコール使用障害との関連性を示した横断研究はあるが、その関連性を明らかにするには限界がある。前向きデザインの研究ならば、それらの因果関係を示す強いエビデンスを得られる可能性がある。	
方法： このコホート研究では、成人集団における一般的な不安障害、特に特異的な病的恐怖症と二次的なアルコール使用障害の長期的な関連性を検討した。さらに、著者は性別によって関連性が異なるかどうかの仮説も検討した。Baltimore Epidemiological Catchment Area Follow-Up (N=587人) データを用いて、1981年のベースラインのインタビューの際に不安障害を有した人々がその後アルコール使用障害へと発展するという仮説を検討した。	
結果・考察： ベースライン時の特異的な病的恐怖症は共通であるにも関わらず、不安の数や特異的な不安はアルコール使用障害の発症との統計学的に関連は認めなかった。むしろ調査の結果は、成人の潜在性の特異的な病的恐怖症（実質的な悩みや干渉を除く）とのちに発症するアルコール使用障害との間の軽度の関連性が明らかになった（オッズ比=3.2）。さらに、著者はこの関連性が男性よりも女性で強いということを見出した。	
結論： 本研究では、不安障害とアルコール使用障害の長期的な関連性は軽度であった。潜在性不安障害の有病率が高ければ、不安障害とアルコール使用障害のリスクとの関係は、成人集団におけるアルコール使用障害の発症に大きなインパクトを与えるだろう。	